

[ 成果情報名 ] 「させば温州」の芽かきとジベレリン散布による生理落果軽減技術

[ 要約 ] 新しょう発生が多い「させば温州」に対し、花の周辺部を芽かき処理したうえで、ジベレリン（25～50ppm）を満開7～8日後に散布すると生理落果を軽減することができる。

[ キーワード ] させば温州、新しょう、生理落果、ジベレリン

[ 担当 ] 長崎果樹試・生産技術科

[ 連絡先 ] 電話 0957-55-8740、電子メール s00660@pref.nagasaki.lg.jp

[ 区分 ] 果樹

[ 分類 ] 普及

---

[ 背景・ねらい ]

「させば温州」は、発生する芽の数が多いことなどから生理落果しやすい。着果が少ないと大玉果となり高品質な果実を安定生産できない。そこで、ウンシュウミカンの落果防止として登録されている植物生育調節剤ジベレリンの実用性を検討する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．新しょう発生が多い樹に対して、芽かき処理すると結実率が向上する傾向がある（図1）。さらに、ジベレリン（25～50ppm）を散布すると着果数および結実率が有意に高くなる（表2）。
- 2．直花果の着果には有意差はないが、有葉果の着果数は有意に増加する（表2）。
- 3．ジベレリンの散布濃度は、25ppmより50ppmの散布効果が高くなる傾向であるが有意な差ではない（表1、表2）。
- 4．新しょう発生が少ない樹は結実率が高く、芽かきの効果は新しょう発生が多い樹で高い（図1）。
- 5．ジベレリン散布による新しょう長への影響は小さい（表1）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．ジベレリン散布は新しょう発生が多い樹に行い、幼果に充分量の薬液がかかるように散布する。
- 2．ジベレリンの散布効果を高めるために、花周辺部の芽かきを怠らないようにする。
- 3．本成果は、側枝単位で芽かきとジベレリン散布を行った結果である。

[ 具体的データ ]

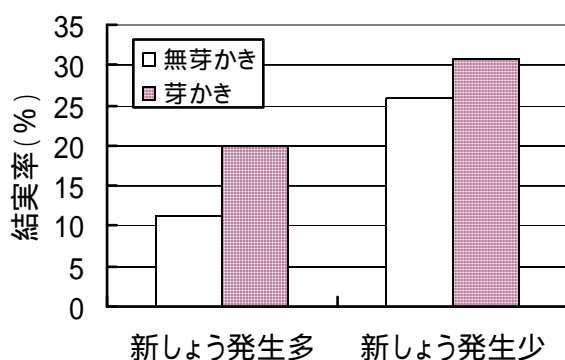


図 1 新しょう発生程度の異なる樹に対する芽かき効果(2003)

表 1 新しょう発生量の多少が混在した樹に対する芽かきとジベレリン散布の生理落果軽減効果(2000)

処 理	芽かき率		結実率		新しょう長	
	芽かき (%)	無芽かき (%)	芽かき (%)	無芽かき (%)	芽かき (cm)	無芽かき (cm)
ジベレリン 50ppm	28	0	22.0	9.1	7.9	8.9
ジベレリン 25ppm	32	0	21.3	5.3	8.3	8.2
無 処 理	43	0	3.4	3.0	9.9	9.7
有意性	-	-	ns	ns	ns	ns

注)ジベレリンは5月17日(満開後8日後)散布

表 2 新しょう発生が多い樹に対する芽かきとジベレリン散布による生理落果軽減効果(2004)

処 理	着 果 数			結実率 (%)
	有葉果 (個/母枝)	直花果 (個/母枝)	全着果数 (個/母枝)	
芽かき + ジベレリン 50ppm	1.5 a	0.5	1.9 a	19.6 a
芽かき + ジベレリン 25ppm	1.4 a	0.3	1.7 a	18.5 a
無 処 理	0.2 b	0.1	0.3 b	3.1 b
有意性 <sup>z</sup>	**	ns	**	**

<sup>z</sup> \* \* は 1%水準で有意差あり。ns は有意差なし。

a~b は異なる文字間で有意差あり。

注)ジベレリンは5月12日(満開8日後)散布

[ その他 ]

研究課題名 : 長崎ブランド「出島の華」の安定生産技術の確立  
 予算区分 : 県単  
 研究期間 : 2004 ~ 2008 年度  
 研究担当者 : 古川 忠、林田誠剛